

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4071601738		
法人名	株式会社 さくら苑		
事業所名	グループホーム さくら苑		
所在地 (電話番号)	福岡県久留米市南1丁目17番1号 (電話) 0942-36-2115		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成21年8月4日	評価確定日	平成21年9月2日

## 【情報提供票より】(H21年7月19日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	15人, 非常勤 1人, 常勤換算 9.85人

### (2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="checkbox"/> 単独 <input type="checkbox"/>	新築 <input checked="" type="checkbox"/> 改築 <input type="checkbox"/>
建物構造	鉄骨 造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( ) 円	無( )		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 100,000 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	350 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要 (7月19日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	8 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.2 歳	最低	69 歳	最高	99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	内科筒井医院、新古賀病院、ならはら整形外科、毛利歯科
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街の中に位置し、建物自体も周りの景観に調和しており、地域の中において、全く違和感を感じないグループホームである。地域住民を始め、協力医や市の職員等との連携も密に取れており、ホーム内だけではなく、いろんな人たちと協力しながら、利用者の日々の暮らしが支えられている。特に医療面においては、医師の全面的な協力体制が整っており、ターミナルケアにも積極的に取り組んでいる。地域性を大事にしたいという代表者の考えにより、利用者とは話をする言葉も方言を交えてざっくばらんな雰囲気、一層コミュニケーションが深まっているようである。また利用者の方々も、ホームで生活しながら、押し花教室に通ったり、テレビを買いに行ったりと、それぞれが思い思いのスタイルで日々の生活を楽しんでいる様子を窺い知る事が出来る。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価では、同業者との交流を通じた向上という項目について取り組みを期待したいという結果になっていたが、その後、事業者協議会の勉強会やボリング大会等に参加する回数も増え、同業者同士の交流の機会が図られている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価作成に当たって、職員に対して、何のために行うのかという説明がなされていなかったため、全職員が評価の意義について理解できているかどうか疑問が残った。今後は、自己評価に対する意義を十分に理解した上で、取り組んでいくことが望まれる。また、自己評価をまとめたものを、職員と共有するところまでは至っていないので、全職員で共有し、これまでの業務を振り返る場として、自己評価を実施していくことに期待したい。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>自治会長や市の職員、地域包括支援センターの職員、利用者及びその家族が出席して、2ヶ月に1回開催している。会議では、ホームの取り組みや行事等を報告したり、逆に地域の情報を教えてもらう等、双方の情報交換の場となっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>日頃より、それぞれの利用者の担当職員と家族が話をする機会を作る様に心掛けている。また、年に2回家族会を開催しており、それぞれが気軽に意見を出せる場としている。また、直接意見等言いにくい方のために、意見箱の設置も行っている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の行事(夏祭り等)への参加については、毎年声をかけてもらっており、出来る限り全員で参加するようにしている。また地域の方とも顔見知りになっており、散歩の時には声をかけあったり、野菜をおすそ分けしてもらう事等もある。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初より「…ご家庭や地域との交流の中にも、安心と安らぎのあるホームを目指します」という理念を掲げ、実践に向けて取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の朝礼の時に全員で唱和することにより、職員に対する理念の意識付けを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事(夏祭り等)への参加については、毎年声をかけてもらっており、出来る限り全員で参加するようにしている。また、地域の方とも顔見知りになっており、散歩の時には声を掛け合ったり、野菜をおすそ分けしてもらおうこと等もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票を項目毎にそれぞれの職員に振り分けて、記入・作成したものを集めて内容をまとめ、最終的に代表者が作成している。しかし作成にあたって、何のために自己評価を行うのかという説明がなされておらず、全職員が評価の意義について理解するには至っていない。		今後は、自己評価に対する意義を十分に理解した上で取り組んでいくことが望まれる。また、自己評価をまとめたものを、全職員と共有するところまでは行っていないので、全職員で共有し、これまでの業務を振り返る場として、自己評価を実施していくことに期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長や市の職員、地域包括支援センターの職員、利用者及びその家族等が出席して、2ヶ月に1回開催している。会議ではホームの取り組みや行事等を報告したり、逆に地域の情報を教えてもらう等、双方の情報交換の場となっている。		今のところ、実際に介護に当たっている職員の参加がない状況であり、どのような会議が開催されているのかという理解が出来ていない。時間が許す限り、現場の職員にも積極的に参加してもらったり、議事録を回覧する等して、どのようなやり取りが行われているのかを知ってもらうことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当者とのコミュニケーションが密に取れており、何でも気軽に相談することが出来る関係が構築されている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	代表や管理者は、制度についての理解は出来ているが、他の職員については、今のところ制度についての理解はあまり出来ていないようである。		特定の職員だけではなく、全職員が制度についての理解を深めてほしい。誰もが関係機関に対する橋渡しができる状態にしておくために、パンフレット等を常備しておき、それを基に説明が出来るようにしておくことが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月に1回、利用者の写真が入った「さくら苑便り」を作成しており、それを家族に送付したり(キーパーソンの家族だけではなく、連絡先を把握している全家族に送付している)、面会時にも利用者の状況等を話すようにしている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃よりそれぞれの利用者の担当職員と家族が話をする機会を取るよう心掛けている。また年に2回、家族会を開催しており、それぞれが気軽に意見を出せる場としている。また直接意見等言いにくい方のために、意見箱の設置も行っている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	時々職員の離職がある状況ではあるが、今のところ利用者の混乱は特に見られない。ダメージは最小限に抑えられているようである。		職員の離職を最小限に留めるために検討していかなければならない課題を、少しずつでもいいのでクリアしていくことが望まれる。(職員の休憩の場所、時間の確保等)
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、本人の「がんばっていきたい」という気持ちがどれだけあるのかというところを重視しており、年齢や性別、資格等で採用から排除することはない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	倫理研究所から、毎月倫理や法令順守について書かれた冊子が送付されてくるので、それを毎朝の朝礼時に職員に読んでもらい、意見を出し合っている。そのことにより、人権についての理解を深めてもらっている。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームに研修案内が来た際は、その都度職員に対して参加の呼びかけを行っており、積極的な参加を促している。しかし今のところ、ホーム独自の研修計画の作成は行っていない。		職員のスキルや段階に応じて研修を受講することが出来るように、事前に計画を立てておくことが望まれる。
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内で立ち上げている事業所協議会のグループホーム部会に参加しており、定期的に行われている勉強会やボーリング大会等に参加しながら、同業者同士の交流を図っている。また、勉強会では事例発表等も積極的に行っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や体験入所(2泊3日)等を利用してもらったり、ホーム側から事前に面会に行く等しながら、徐々に場に馴染んでもらった上で入居できるよう、配慮や工夫を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であり、教えてもらうことがたくさんある。また相談しあったり、昔の話を聞かせてもらったりしながら、お互い支えあう関係を築いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から、その人の思いや意向を引き出すよう心がけている。意向の把握が困難な利用者については、家族にも話を聞きながら、本人の意向の把握に努めている。しかし、その内容が記録としてはあまり残っていない状況である。		アセスメントやケアプランに、その人その人の意向や思いを書き留めた上で、その実現に向けてケアに取り組んでいけるようにしていくことが望まれる。
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	今のところ介護計画は、利用者や家族、主治医等の意見をそれぞれ個別に聞きながら、それぞれの利用者の担当職員と計画作成担当者が話し合いながら作成している。作成したものについて、家族の同意が得られていないケアプランが数点見受けられた。		職員側の視点も大切だが、家族の現状や意向も大切にしながら、利用者がよりよく暮らす支援として何が必要か、家族と共に利用者本位の検討を行うことが必要である。また、家族と計画作成担当者がすれ違いになっており、ケアプランの説明が出来ていないケースがあるようだが、同意は必須である。郵送等の手段も視野に入れながら対応していくことが望まれる。
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、見直しを行うようにしている。その間、状態に変化があれば、その都度ケアプランの見直しを行うようにしている。		
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人にとって、現状、どのようなことが必要なのかを考えながら、状況に合わせて支援している。受診の介助や買い物等、臨機応変に対応するようにしている。		
<b>4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の状況に応じて、元々のかかりつけ医への受診をしている利用者もいれば、協力医の受診を希望している利用者もいる。いずれも利用者や家族の意見を尊重した上で支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看取りについての指針を作成しており、入居契約時に説明を行い、同意の記名・捺印をもらっている。実際にその状態になられた場合、かかりつけ医をはじめ、家族とも十分話し合いを行いながら連携を取りつつ、対応するようにしている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉かけや対応は、プライバシーに配慮して行われている。また個人ファイル等は事務所に置くようにしており、外来者からは見えないよう配慮されている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や心身の状態に応じて、臨機応変に対応するようにしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員だけではなく、利用者にも配膳や片付け等、それぞれが負担にならないよう、出来る部分を手伝ってもらいながら、一緒に同じ食事を摂り、楽しむことができる雰囲気づくりが行われている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1回、入浴してもらおうようにしているが、希望があれば毎日でも入浴可能である。利用者の状況や希望に合わせて臨機応変に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の希望や気持ちを引き出すよう心がけており、なるべく希望に添えるように支援している。また、それぞれの力を活かせる場面を提供するように心掛けている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	それぞれの希望を聞きながら、散歩や買物等に出掛けている。また時には外食やドライブにも出掛けることもあり、積極的に戸外に出る機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関と1階の出入り口は鍵をかけておらず、万が一外に出るようなことがあっても、ドアにセンサーをつけているため、その音でわかるようになっている。ただし、2階の出入り口前は階段になっているので、危険防止のために鍵をかけるようにしている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いの避難訓練を年1回、その他机上訓練も年1回実施しており、夜間を想定した訓練も行っている。実施の際には近隣にも訓練日を伝えて、参加を促している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	正確なカロリー計算までは行っていないが、バランスのよいメニューづくりを心掛けており(おおよそ1500kcal)、摂取量を記録するようにしている。水分についても1日1500cc確保できるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり			
32	83	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広々としており、ソファや食卓も一般の家庭で使用しているようなものが置かれ、ゆったりと心地よく過ごせる空間づくりがなされている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮			
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、利用者と家族の意向で、好みのもので使い慣れた家具、人によっては仏壇等も持ち込まれており、自宅にいる感覚で居心地よく過ごせる空間づくりがなされている。		